

外務省における 漂流・漂着ゴミ問題への取組

日本各地で深刻化する漂流・漂着ゴミ問題



海外由来と思われるゴミも少なくなく、
地方自治体及び一国レベルを超えた
国際的な取組が喫緊の課題。

2006年8月自民党「漂流・漂着物対策特別委員会」
2006年2月「漂流・漂着ゴミに関する関係省庁特別会議」
で漂流・漂着ゴミ対策について活発な議論が行われる。

平成18年8月

日本海沿岸に中国語表記のある医療系廃棄物が20,000点以上漂着←二次災害の危険もあり、再発防止が重要

平成17年

日本海沿岸に漂着するポリタンクの数8,368個うちハンゲル記載1,821個



漂流・漂着問題に豊富な経験とノウハウを有する
我が国が問題解決に国際的なリーダーシップを発揮するべく、
多国間及び二国間における取組を強化

1. 多国間枠組における取組

NOWPAP主催ICC(国際海岸グリーンアップキャンペーン)
への外務省の支援

過去の実績

2006年9月NOWPAP・ICC(山形)に
約1,189万円を拠出

2007年6月NOWPAP・ICC(中国日照市)に
約280万円を拠出



今後の予定

2008年に開催予定のNOWPAP・ICC
の機会を捉えて、漂流・漂着ゴミ対策の市民運動
の中核的リーダーとなる人材育成のための
ワークショップを開催する予定

わが国がNOWPAPの枠組みを活用して
国際的リーダーシップをとり、漂流・漂着ゴミ
対策を一層推進



2. 二国間における取組

原因究明の申し入れ及び協力推進

韓国

2006年2月及び2007年7月に開催した日韓環境保護協力合同委員会において、原因究明を申し入れるとともに、問題解決に向けて双方が協力することを確認。

中国

2007年9月の日中環境保護合同委員会において、我が国の重大な関心を示し、注意喚起を行うとともに、発生源及び漂着ルート の 解明を申し入れ。中国側から、医療系廃棄物に関する管理を厳格化し、調査を継続するとの回答を得た。

今後も多国間及び二国間の枠組みにおいて、漂流・漂着ゴミ問題解決に向けて我が国が国際的なリーダーシップを発揮